

都道府県番号	12
都道府県名	千葉県

[  ]

学校名及び規模

学校名	茂原市立茂原中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	5	5	1	15	33
生徒数	134	163	164	5	466	

研究の概要（主題及び設定の趣旨）

(1) 研究主題

『 一人一人を生き生きする力を育てる学びの創造 』  
確かな学力の向上に向けて

(2) 主題設定の趣旨

本年度は、昨年度の実践から得た成果と課題をもとに、9教科それぞれの学力観と3つの仮説の検証を行う。特に、「学ぶ力」「学ぶ心」を育てる教育課程や指導法の工夫、教材の開発、学力支援サポートセンターの設立による地域人材の活用、指導と評価の一体化をめざす試みを続け、通知票の改訂を含む個別指導と学習意欲を高める方策を追究する。

生徒一人一人を生かす学び（＝学習の個別化を図り、生徒個々が特性を發揮できる場面を与える指導）、生きる力を育てる学び（＝自己の課題が分かり、それを解決する方策や意欲を育て、生きる力につなげる指導）を、創造的に探求する。

研究の概要（児童生徒の学力の評価を生かした指導の改善の実践例）

(1) 研究推進体制の工夫

- ・研究推進委員会（校長、教頭、正・副教務部長、正・副研究部長、学年部長）
- ・3校連絡協議会（茂原中・萩原小・茂原小 各教頭、研究主任、幹事校校長）
- ・学力支援サポートセンター（3校校長及び地域協力員）

(2) 研究の実際

本校では、研究仮説を「一人一人の理解状況を的確に把握するために、評価規準・基準を作成し、評価場面と方法を工夫すれば、生徒の学習意欲が増すであろう。」とし、各教科毎に生徒の学力の評価を生かした指導の改善を目指している。ここでは、英語科の例をあげてみる。

英語科における生徒の学力の評価を生かした指導の改善

英語科における研究の方策

	教科等における確かな学力観	研究仮説 1 基礎基本を定着させるために、一人一人の実態に応じたきめ細かな指導の一層の充実を図れば、自ら学び自ら考える力が育つであろう。	研究仮説 2 補足的な学習や発展的な学習等、個に応じた一人一人の力をより伸ばすための教材を開発すれば、確かな学力が身につくであろう。	研究仮説 3 一人一人の理解状況を的確に把握するために、評価規準を作成し、評価場面と方法を工夫すれば、生徒の学習意欲が増すであろう。
英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生きて働く積極的な表現力を習得すること。</li> <li>・基礎・基本の継続学習により実践的コミュニケーション能力を身につけること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週3時間に対応する学び方の徹底・指導の個別化</li> <li>・学習の個人ゴールを明らかにしたワークシートやノート指導の徹底</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補充と発展を取り入れたワークシートの工夫</li> <li>・繰り返し反復するスパイラル教材の活用</li> <li>・意図的なコミュニケーション活動の設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価規準を明確にした授業の工夫</li> <li>・自己評価カード、相互評価カード、観点別のテスト問題作成とゴールの設定</li> <li>・個別化と支援</li> </ul>
重点指導 変容を探る手立て		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年に応じたBasic Time（5分間writing, reading等、個に応じたドリル）等の徹底</li> <li>・年間を通して、ある期間のBasic Timeの結果をテスト、アンケートで調査し、表現力の伸びを図り指導を生かす。</li> </ul>		

### 具体的な研究内容

- (A) Basic Time を有効に活用し、基礎・基本の継続的な学び方を身につけさせる。
- (B) 少人数、習熟度別授業の中で、個に応じた教材、評価につながるワークシート等を工夫し、生徒が課題を把握し、自ら意欲的に学べるような指導法の改善を行う。
- (C) 評価と指導の一体化をめざす。特に、支援の必要な生徒に対して、放課後の個別指導・宿題等の追跡学習を行い、英語学習の意欲付けを図る。
- (D) 定期テストの観点別出題、毎授業の確認テスト等により、生徒の英語力の変容を探る。更に、基礎力の保持のため、スパイラルな指導を継続する。
- (E) 生徒の興味・関心を高める英語学習を意図的に取り入れる。発展的な学習により、広い視野から国際社会に求められているコミュニケーション能力の育成にあたる。

上記の研究内容は、次の全体構想図によって、具体的にになると考えた。

### 英語科における確かな学力

<b>実践的コミュニケーション能力の獲得</b> (「聞く・話す、読む・書く」の規準をおおむね越えることができる)	<b>様々な場面で生きて働く積極的な表現力を習得</b> (ものごとを真摯にとらえ、自分の考えをまとめるために情報を収集し、英語で書いたり伝えたりすることができる)
--	---



授業のはじめとまとめの時間を「Basic Time」と位置づけ、年間を通して活用する。1年次、2年次、3年次で、計画的に から までの基礎・基本を補填していくことで、英語科の学力向上とする。語彙力の育成と基本文の定着では、教科書の必修単語と基本文を中心に、1年(3月)、2年(5月と3月)、3年(9月と2月)で100単語と基本文のテストで伸びを見る。 に関しては、テストは行わないが、普段の授業の中でワークシートで単元毎に確認する。 に関しては、「外国語を使って、日常的な会話や簡単な情報の交換ができるような基礎的・実践的なコミュニケーション能力を身につけること」ととらえ、Quick Response Sheet や教科書の Let's talk、Let's listen、学年毎の「役立つ表現集」を中心に、英語を使ってメッセージの交換ができるようにする。この活動の目標は、Speech、Discussion や Debate を含めて、自分の考えを人に伝える楽しさや「聞く」・「話す」能力の育成であるので基本的に授業は英語で行い、多くのコミュニケーションの場を与える。また、ALT 来校の際、放課後インタビューテストを行うことで確認する。Reading の Basic Time は、原則として7月末におき、英語発表会を目標に、Reading Elimination を各学級で行う。Writing に関しては、単元毎の指導計画に基づいて自己表現を行った際に、添削・個別指導を重ねる。以上、6つの基本を押さえながら、Basic Time の活用を通して、生徒の英語力の育成を目指す。

Basic Time では6つの要素を含め、特に、 から のサイクルを重視する。以降の個別指導が学力の育成につながるポイントとなる。生徒の個別の要求に応じ、可能な限りのフォローアップを試みる。



### 補助プリントによる基礎力の確認(コース別ワークシートにより繰り返し個別指導)

目的別のテストを行い、コースの目標を明らかにし、生徒に選ばせる。基礎HOPコース、補充STEPコース、発展JUMPコースに分け、様々なワークシートを個々の状況に合わせて作成する。授業の中で、TTにより可能な限り個別指導を行い、多くのドリルを通して基礎力の定着を図った。

(a) ていねいな基礎・基本の説明

HOP コース

HOPコースAグループ  
Class: \_\_\_ No: \_\_\_ Name: \_\_\_\_\_

<Program 7> 単語・熟語確認ノート  
次の単語・熟語をしっかりと確認しましょう。

・newspaper	新聞	・answer	答え 答える
・a few	少しの	・dear	親愛なる
・May I ~?	~してもいいですか?		
・give	与える	・important	重要な
・enjoy	楽しむ	・feel	感じる
・finish	終わる	・because	なぜならば
・wrote	writeの過去形(書いた)		
・ask	たずね問う	・present	プレゼント
・gave	giveの過去形(与えた)		
・show	見せる	・world	世界
・question	質問	・children	子供達

1つ1つの単語・熟語の発音を確認しよう。単語・熟語のつづりと意味を一致させよう。確実につづりを覚えよう。今日だけでなく何度も自分で確認し、覚えていられる単語・熟語を増やしていこう。

(b)段階に分けた基本事項の確認・応用1

STEP コース

コース別学習プリント> STEPコースB

1. 単語をしっかりと確認しよう。

美しい山 beautiful ( )  
町( )は場所 a good ( )  
終わる ( ) 空気( )  
on time ( ) turn off ( )  
go away ( ) 電気 明かり( )  
anything to eat ( )  
look forward to ( )

2. 基本文法(不定詞)の確認しよう。

(1)例にならって、「~は~するための・がほしいたくさんあります」という文を作ろう。

例 I want something to eat.  
Jiro has a lot of homework \_\_\_\_\_ today.  
I have a lot of books \_\_\_\_\_ .  
He has a lot of \_\_\_\_\_ now.

(c)段階に分けた基本事項の確認・応用2

JUMP コース

<Program 7> 文法確認ノートJUMPコース  
Class: \_\_\_ No: \_\_\_ Name: \_\_\_\_\_

1. 「~ing(~すること)」、「動詞+(人:目的格)~に+(物)~を」、「動詞+形容詞」の用法をもう一度確認しよう。

2. 日本文に合う英文になるように、( )内から適する語を選びましょう。

(1) I enjoy ( listening , to listen ) to music.  
(2) I enjoyed ( to play, playing ) soccer.

3. 例にならって、「~は...して楽しみました」という文を作りましょう。

例 I enjoyed reading a book. (私は本を読んで楽しみました。)

(1) I enjoyed \_\_\_\_\_ TV.  
(2) We \_\_\_\_\_ tennis.  
(3) Emiko \_\_\_\_\_ to music.

4. 次の文の( )内の語を適する形に変えましょう。

(1) Takeshi enjoyed ( run ). \_\_\_\_\_  
(2) Yuki finished ( watch ) TV. \_\_\_\_\_

自己評価カード(目標を示して達成させ変容をみる)

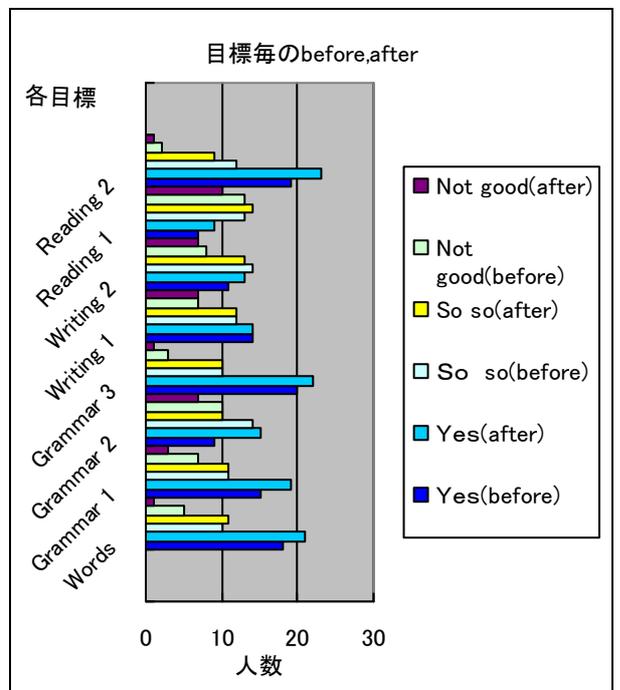
自己評価カードの活用を通して、個別の疑問や課題を探る。評価カードに示した学習目標に対して、指導と確認テストを行い、特に、指導の前後、更にはしばらく時期をおいた定期テストの後に、変容を問う。加えて単元末のコース別授業において、習熟度別の指導を通して生徒個々が抱えている課題を明らかにできる。コメント欄の書き込みをもとに面談を行う。単語に対応する指導、文法に対応する指導、手紙文の表現指導、発展的なコースの英字新聞読解、最終的な音読指導など、各学期単元末、定期考査後に集中的に行う。この時点で、いかに個に迫るかが決定的な要因となる。それでも、設定基準に達することのできない生徒に対しては、この後、特設の時間を作り、家庭学習や放課後指導を続けた。その結果、右図「目標毎の before ,after」のように、各目標に対して、少しずつ手ごたえを感じることができている。

Program 7 自己評価カード HOPコース

Class: \_\_\_ No: \_\_\_ Name: \_\_\_\_\_

	目 標	Yes	So so	Not good
Words	単語・熟語を確認しよう。			
Grammar	文法 1: ~ing ( ~すること)			
	文法 2: 動詞+~(人)に+(物)(目的語を2つとる文)			
	文法 3: 動詞+形容詞 (~のように見える)			
Writing	手紙文の表現を確認しよう。			
Writing	手紙文を書いてみよう。			
Reading	英字新聞を読んでみよう。			
Reading	本文の内容を理解し、音読しよう。			

コース別 自己評価 コメント	コース別 自己評価 コメント	コース別 自己評価 コメント
-------------------	-------------------	-------------------



下図は本年度改訂した通知票の例である。指導前後の調査、授業中の形成的評価、評価項目を意識したテスト問題づくり等、総括評価までの過程を点検することができた。

通知表の評価項目と評価内容

評価内容	Program 5, 6	評価	Program 7, 8	評価	Program 9, まとめ	評価	評定
外国語 コミュニケーションへの関心・意欲・態度 表現の能力 理解の能力 言語・文化への知識・理解	ペアやグループで発表に工夫をし意欲的に取り組もうとしている		間違いを恐れずに、自分の伝えたいことを書こうとしている。		カードの作成や電話での対話に積極的に取り組もうとしている。		
	飛行機内、空港での会話、家族の紹介などの表現ができる。		whose, how, 現在進行形、代名詞の目的格を用いて表現ができる。		過去形、whereなどを用いて表現ができる。		
	3単現、what, whoなどの基本的な文が理解できる。		Eメールや手紙の書き方が理解し、表現することができる。		一日の出来事を書いたり、聞いたりすることができる。		
	日米の生活習慣や学校生活での相違点を理解することができる。		駅、映画館、買い物などの知識を身につけ、違いが理解できる。		パーティやサンタクロースなど、日米の文化の違いを理解できる。		

(3) 研究の成果と課題

特に、学び遅れの生徒に対する個別指導が可能になった。

評価方法を見直すことにより、様々な指導方法の改善ができた。

絶対評価を加味した観点別年間指導計画、単元別指導計画、1単位時間内の評価計画など、評価の目安となる尺度をある程度、明確にできた。さらに、それぞれの相関関係と整合性を洗い直す必要がある。

通知票の改訂により、目的に準拠するテスト問題、評価カード、生徒の評価データのファイルの仕方など、多くの見直しが進んでいる。

面談、家庭訪問により生徒や保護者に対する評価の説明責任を果たすことができるようになった。

(4) 研究成果の普及の方策

茂原中学校区としての普段の授業交流（今年度は、延べ16回の授業参観）

中間報告会（授業公開）の開催。要請訪問（10月・11月）を生かした地域公開授業

『研究のまとめ』及び実践集CD-Rの配布

茂原教育、長生研究所だより、保護者には学校だより「松風」にて報告

県外33人、中間発表会120人の訪問、授業参観をしていただいた。

平成16年度 全国公開

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 〔新規校・継続校〕      15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 〔学校規模〕              3学級以下                              4～6学級
- 7～9学級                              10～12学級
- 13～15学級                              16学級以上
- 〔指導体制〕               少人数指導      b       T.Tによる指導
- その他
- 〔研究教科〕               国語               社会               数学               理科
- 外国語       音楽               美術               技術・家庭
- 保健体育
- その他
- 〔指導方法の工夫改善に関わる加配の有無〕  有                              無

【特色ある取組事例として紹介したいポイント】

茂原市立茂原中学校では、自己評価カードや確認テスト等を活用し、一人一人の理解の状況や課題を的確に把握し、指導に生かしている。こうした個々に対するきめ細かな指導により、生徒が達成感を味わうことができ、意欲的に学習することや基礎学力の向上に成果をあげている。